令和5年度 新城市教育方針説明

『子どもが輝くまち新城』の実現に向けて

令和4年度、『子どもが輝くまち新城』の実現に向けて、新城市教育振興基本計画（計画期間：令和6年度～令和10年度）の作成に着手しました。令和5年度中に、作成を完了し、基本計画を公開する予定です。本日、基本計画の根幹にあるものを、新城市教育方針として説明します。

1 教師の授業力向上

私たちが目指すのは、『子どもが輝くまち新城』です。そのために、何を差し置いても教師がやらなくてはならないことは、自分の授業を磨くことです。本年度、これまで行ってきた『学校訪問』を『みがく』という名称に変更し、授業力向上に焦点化した研修の機会としました。1 学期と 2 学期に行われた市内19小中学校の各々の『みがく』の取組の中から、提案性の高い授業を行った教師に授業公開を依頼し、1月に『授業を学ぶ会』を開催しました。その授業をご覧ください（録画再生2分）。

授業を参観した市内の教師は、子どもの一人調べの質と量に驚嘆し、協議会では授業者への質問が飛び交いました。
「この授業までに、子どもたちは一人調べをどれくらいの時間をかけて行ってきたのか。」
「一人調べのシートが10枚以上あって、調べたくてたまらないという子どもの気持ちが伝わってきた。子どものモチベーションの維持をどのようにしているか。」
といった質問です。参観者は、子どもの姿という何よりも説得力のある証拠を目の当たりにし、授業づくりへの熱い思いを授業者に学ぶ機会となりました。

学校において、子どもの成長の大元にあるものは、教師の授業力です。子どもが「知りたい」「調べたい」「覚えたい」「やってみたい」「できるようになりたい」「学びたい」と思い、その思いをもち続け、さらに膨らませる学びを保証する教師の力です。子どものもつ可能性を伸ばし、子どもを本当に輝かせる教師の力です。日々の授業が、子どものやる気で満たされていれば、子どもは成長し、輝き続けます。

ゲームやネット依存による生活習慣の乱れ、学力や体力の不足、いじめ、不登校、ひき

こもり、無気力等、教育現場が抱える課題は数多くあります。それぞれの課題を解決するためにさまざまな手立てを講じる必要がある一方で、教師が授業力を高めることができれば、子どもがいきいきとした教室となり、このような課題を生じにくくさせることができます。教師が、日々の授業という学校教育の本質に焦点を当てて研鑽を積むことで、子どもの学習意欲が高まり、課題解決に至るさまざまな相乗効果が生まれると考えます。

ここで、令和4年度の学校評価における保護者の評価を報告します。次の4つの質問に、「そう思う」「ややそう思う」という肯定的に答えた保護者の割合の市内小中学校平均値です。
「お子さんは学校生活を楽しんでいますか。」の問いに92%
「学校は学力向上に努めていますか。」の問いに89%
「学校は豊かな心の育成に努めていますか。」の問いに90%
「学校は体力の向上に努めていますか。」の問いに88%でした。コロナ対策に追われる中ではありましたが、多くの保護者が、現在行われている学校教育を肯定的に受け止めています。このことは、知徳体にわたる子どもの成長を目指し、日々、前向きに実践に取り組んでいる教師が多いという評価でもあると考えます。

授業力向上は、教師一人一人の意識が大きく関与するものです。そのうえで、『みがく』や『授業を学ぶ会』をはじめ、学校内や学校間で教師同士が学び合う場、磨き合う場を設けることで、教師間に化学反応が生まれます。教師が、授業について主体的・対話的に深く学ぶことにより、初めて、子どもの『主体的・対話的で深い学び』が生まれるのです。教師の学びを応援するために、教育委員会は、教師が授業づくりに専念できる体制を整えます。具体的な方策として、

〇研修の精選と充実
〇対面研修とオンライン研修のバランス最適化
〇小学校専科制度の充実
〇中学校35人学級の継続実施
〇部活動地域移行への着手

に取り組みます。学校と教育委員会の連携を重視しながら、一人一人の子どもに教師の目が行き届く教育環境づくりを行います。

子どもの輝きは、授業力向上に専心努力する教師の輝きから生まれます。成長する教師のそばで、子どもは無限の可能性を伸ばし、成長し続けます。そして、将来、さまざまな問題に直面しても、解決に向けて前進する力を身に付けることができます。教師の授業力向上を、新城市教育方針の最重要目標として掲げ、学校教育の充実に努めます。

2 よく遊び よく学べ

子どもが輝く姿を想像したとき、忘れてはならないもう一つの側面があります。それは、成長期の子どもが心をかよわせる対象の中で一番大切なのは、自分以外の子どもということです。子ども同士の心のかよい合いがなくては、子どもは成長しません。子ども同士の心のかよい合いが自然に生まれるのが遊びです。

子どもにとって、遊びは元来楽しく、夢中になれるものです。夢中になるからこそ、けんかやもめごとは付きもので、仲直りをしたり、もめごとを解決したりする必要があります。そのためには、相手の気持ちをよく考えなければなりません。自分勝手は通用しません。

子どもは遊びの中で、小さな失敗をいくつも繰り返し、他者との関係づくりを学び、協調性や社会性を身に付けていきます。遊びは、子どもだけの世界の出来事であり、大人が介在しない貴重な時間です。子どもが子どもだけの力であらゆることを解決しながら楽しみ、学び、成長する場といえます。

いつの時代も、子どもにとって遊びはとても大切なものです。「よく遊び よく学べ」のことばどおり、適切な時期に遊びにどっぷり浸かってほしいと思います。子どもの輝きは、よく遊び、よく学ぶことから生まれます。放課後や土曜日曜、夏休み、冬休み、春休みには学校が開放され、子どもが遊びたいと思えば、いつでも仲間が集い遊べる環境を整えます。そして、子どもが遊びに夢中になり、生涯を生き抜くエネルギーを子ども時代に蓄えられるように努めます。

3 子どもの輝きは大人の輝きから

子どもは、親、家族、学校の先生、地域の人など、さまざまな人に出会い、いろいろなことを知り、いろいろなことを思い考え、日々成長していきます。人に学び、人を学ぶのが教育の原点です。そして、このことは、大人になってからも続きます。生涯にわたり、人と出会い、人との関わりの中で、より豊かな人生を送ることができます。

『人生100年時代』において、生涯学習の重要性は増すばかりです。新城市が、いつでも、どこでも、だれでも、何度でも学び、活動できるまちであるために、生涯学習の充実を目指します。市民一人一人が、スポーツや文化活動を気軽に楽しむことのできる機会を増やし、人とつながりながら生涯にわたって生きがいをもって健康に暮らすことができるようにします。

『共に過ごし共に学び共に育つ「共育」を市民総ぐるみで進めます。』と、新城教育憲

章の第一文に謳われています。しかし、3年間にわたってコロナの影響により、「共育」を進めにくい状況が続きました。そこで、子どもから大人まで、多くの市民が参加できる内容の講座や教室、体験活動を実施し、再び「共育」を進めていきます。そして、参加した市民が、その後に自主的に学び、活動し、交流し、つながることができるよう、市民主体の活動を後押しできる取組を考案していきます。

生涯学習の拠点としての新城地域文化広場（通称：文化会館）が、築35年経過し、さまざまな改修が必要になってきています。新城地域文化広場が、これからも市民が安全に快適に活動し、学び続けられる場であるために、計画的に改修工事を進める予定です。同様に、市民が安全に快適にスポーツを楽しむことができるよう、鬼久保ふれあい広場B&Gのプール、体育館、カヌー艇庫の改修を行う予定です。

また、新城市は、自然と歴史文化に恵まれたまちです。有形無形の誇るべき数々の宝が、先人の努力によって継承されてきました。雄大な歴史の中で、その一時である現代を生きる私たちの務めとして、これらの宝を知り、理解し、大切に保存・整備し、有効的に活用し、次代に継承していかなくてはなりません。その一翼を担うことができるのが教育です。地域との連携を大切にしながら、子どもから大人まで、自然と歴史文化にふれ、その価値に気づき、ふるさと新城を愛する心を養い、その思いを次の世代につなげていきます。

最後に、生涯学習における新たな枠組みづくりについて説明します。新城市は、子どもが地域の行事に積極的に参加し、地域の中で人とつながり、地域の大人に見守られながら成長していくことのできるまちです。この新城市ならではのよさを、地域の行事だけに留めるのではなく、子どもの学習や活動の場にも生かしていく計画を立てています。具体的には、『新城クラブ構想』として、スポーツと文化活動の両面における中学生の活動を、生涯学習の一環として位置づけ、地域の大人が見守る体制づくりをしていきます。子どもは、スポーツや文化活動を楽しむ大人の姿を間近で見ることで、地域の大人とのつながりを実感し、大人も世代を超えたつながりと充実感を得られる活動を目指します。

以上説明しました、『教師の授業力向上』、『よく遊び よく学べ』、『子どもの輝きは大人の輝きから』を三つの鍵とし、『子どもが輝くまち新城』というテーマに迫ります。